※令和４年度以降入学生用

学校番号	2102

令和５年度　理科

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	２単位	年次	全年次
使用教科書	「科学と人間生活」（数研出版）						
副教材等	「科学と人間生活　サポートノート」（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「虹はどうしてできるのだろう」「電波って何」「着ている洋服の素材にはどんなものがあるのだろう」「発酵食品はどうやって作られているか」「日本に四季の気候の変化が訪れるのはなぜ」など疑問に感じたことはありませんか。そのような日常生活の中で感じる身近な疑問を、科学と人間生活を学んで解決させましょう。

※　ほぼ毎回グループで実験を行います。遅刻や休みが多い生徒、提出物を出さない生徒、筆記用具や教科書を持ってこない生徒、私語を繰り返す生徒、実験に取り組まない生徒は、単位修得が難しいです。

２　学習の到達目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

（１）自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。

（２）観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。

（３）自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前半	科学技術の発展	人間生活の歴史	a：科学技術の発展の歴史について時系列的に理解することができる。 B：未来の科学技術の発展について、考えることができる。 c：身のまわりの科学技術について、調べようとする。	単元テスト ノート	単元テスト ノート	授業への取り組み
	物質の科学	材料とその再利用 ・身のまわりの金属とプラスチックの種類と性質 ・資源の再利用	a：身のまわりの金属やプラスチックの性質と構造について理解することができる。 b：合金やさまざまな特徴のあるプラスチックについて、考えることができる。 c：材料と再利用について、身近な製品や環境問題などと結びつけ、理解しようとする。	単元テスト ノート	単元テスト ノート	授業への取り組み
	生命の科学	微生物とその利用 ・身のまわりの微生物 ・発酵食品への微生物の利用 ・生態系の中の微生物	a：発酵および発酵食品について理解することができる。 b：発酵食品と微生物との関わりを考えることができる。 c：微生物が人間生活のさまざまな場面に役立っていることを理解しようとする。	単元テスト ノート	単元テスト ノート	授業への取り組み
後半	光や熱の科学	光の性質とその利用 ・光の性質 ・身のまわりの電磁波	a：光の性質について理解することができる。 b：光の性質について、考えることができる。 c：光の性質とその利用について、身近な現象に結びつけ、意欲的に理解しようとする。	単元テスト ノート	単元テスト ノート	授業への取り組み

※令和４年度以降入学生用

	宇宙や地球の科学	太陽と地球 ・日本の四季と気象災害 ・太陽放射と大気の大循環 ・天体の運動と海洋	a: 日本周辺の気圧配置や季節風について理解することができる。 b: 地球の運動周期について考えることができる。 c: 四季の変化がある理由や，季節によって起こりやすい気象災害などを意欲的に理解しようとする。	単元テスト ノート	単元テスト ノート	授業への取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度